

講座テーマ「最新の環境科学」(6時間)

テーマの概要(特徴)

実践教育を活かした環境教育講習であり、次の内容を講義する。

- ・成長を前提とした20世紀型発展のなかで発生した環境問題の本質について歴史的観点から解説する(環境問題総論)
- ・自然界における生物多様性の重要性を循環(生物連鎖)の観点から解説する(佐賀の自然)
- ・エネルギー問題について最新の正確な情報を提供する(エネルギー問題)

時限	時間	講義形式	講義題目	内 容
	9:00 ～9:10	※10分	オリエンテーション	
1	9:15 ～10:45 (90分)	講義	環境問題総論 宮島 徹	近年、急速に社会的関心が高まっている「地球温暖化問題」や「資源問題」は、本質的には同源である。今、我々は、20世紀型の社会構造から持続可能な21世紀型の社会構造へと大きな変革を余儀なくされている。 単に、社会構造の転換のみならず、あらゆる場面での人間生活の転換、すなわち、我々の価値観の転換が求められている。成長を前提とした20世紀型発展のなかで発生した環境問題の本質について歴史的観点から解説し、21世紀が持続可能性をもとめた革命的世紀となる事を述べる。人類存続のためには個々の努力の集積が鍵を握っており、個人の義務と責任を指導する教育、特に学校教育の重要性は高まっている。
2	10:50 ～12:20 (90分)	講義	佐賀の自然 宮脇博巳	産業革命以来の急激な地球規模の温暖化、東アジアの急速な工業化、更にあまりに肥大した福岡都市圏の経済圏と隣接する佐賀の環境は年々悪くなっている。現在では佐賀県だけで環境問題を語るのとは全く意味がなく、地球規模の環境変化と連動して広い視野を持って考えることが最重要である。それでも背振・天山山系から広大な佐賀平野を経て有明海までの森・川・海という環境圏には絶滅危惧種に挙げられる様々な動物(鳥類、魚類、昆虫類)や植物が辛うじて生き残っている分布している。その最大の理由は吉野ヶ里の時代より佐賀の人々によって綿々と続けられている稲作である。 逆に言えば稲作文化が崩壊するとき佐賀の貴重な生物も最後を迎えるであろう。例をあげながら、自然界における生物多様性の重要性を循環(生物連鎖)の観点から解説する。 また、佐賀の自然が、単にありのままの自然ではなく、人間が制御し、原自然と調和した2次的自然であることを述べ、21世紀型の社会のありようについて言及する。
	12:20 ～13:20	昼食		
3	13:20 ～14:50 (90分)	講義	エネルギー問題 池上康之	化石燃料からの脱却が緊急に求められるようになっているが、革新的技術はまだ現れていない。低炭素社会構築のために様々な新エネルギーが開発されている。佐賀大学の海洋エネルギー研究センターによる海洋温度差発電や波力発電はその一例である。 太陽光発電、風力発電やバイオマスなど再生可能エネルギーの開発状況と将来性、更には、原子力発電や火力発電など従来型のエネルギーの展望について客観的立場から解説する。 エネルギー問題について最新の正確な情報を提供とともに、現在求められている持続可能なエネルギー開発の考え方を活かした環境教育での捉え方について概説する。
4	15:00 ～16:30 (90分)	まとめ 筆記試験	担当者名	まとめ・筆記試験(60分)
	終了後		評価フォーマット記入、事務連絡	